2012

Annual Report

フィリピン　カオハガン島

Japan Dental Mission

NPO法人ジャパン デンタル ミッション

ヴァヌアツ　タンナ島

Contents

代表理事挨拶 1
活動地域紹介 2
海外活動報告 4
　7月ヴァヌアツ共和国 4
　11月フィリピン共和国 8
　2月フィリピン共和国 11
海外活動参加者の声 14
カオハガンの将来の楽しみ 25
国際交流 26
　八尾市立南山本小学校とレナケル小学校との国際交流 26
寄付活動 27
国内活動 28
学術報告 30
ジャパン　デンタル　ミッションについて 32
協力者名簿 33
２０１３年度海外活動予定 34
理事紹介 35

フィリピン　カオハガン島

代表理事挨拶

最近は「グローバル」と言う言葉を良く耳にしますが、国際社会に於いては、個々の人々がお互いの違いを認めて理解し合うことで、知識も世界も広がります。複数言語が話せるだけでは国際人ではない。言葉は意思を伝える為にとても重要ですが、あくまでも手段に過ぎません。教養とモラルのある「人」を育てるのが文化国家であります。

我々ＪＤＭもこの様なことを意識してチーム作りを行っています。

ヴァヌアツ共和国では、吉竹チームが、ポートビラ（首都）とマレクラ島に於いて２００８年～２０１１年まで歯科医療活動を行うと同時に、教師、歯科衛生士、看護師などの専門職を対象に口腔衛生向上の為の講義活動を行って参りました。毎年レクチャーされたことは、それぞれの分野で、市民や子ども達へと伝わっていることと思います。

今後の展望として、口腔衛生向上の啓蒙と歯科教育活動を重点に行って行き、また実際に現地で活動して頂けるボランティアメンバーの確保も確実にしていきたいと考えています。

ヴァヌアツ共和国に於いて、１９８３年から活動を開始して、今年で３０年目を迎えることとなりました。

思えば、ヴァヌアツ共和国が１９８０年に独立して間もない頃に活動を始めました。

当時、国全体で２、３名の歯科医しかおらず、物資が乏しい中で、電気も無い所からスタートして治療を行っていた事が、つい昨日のように思えます。

毎年、訪問時にはヴァヌアツ政府・保健省並びに教育省とミーティングを行っています。当初は物資の寄付の要望があり、歯ブラシ・文房具・運道具・衣類等を寄付してきました。

最近では、多くの国からの援助もあり、物資は満たされつつあります。

市民の衛生意識の向上と共に、水、石鹸、タオルなどのドネーショングッズも様変わりしてきています。

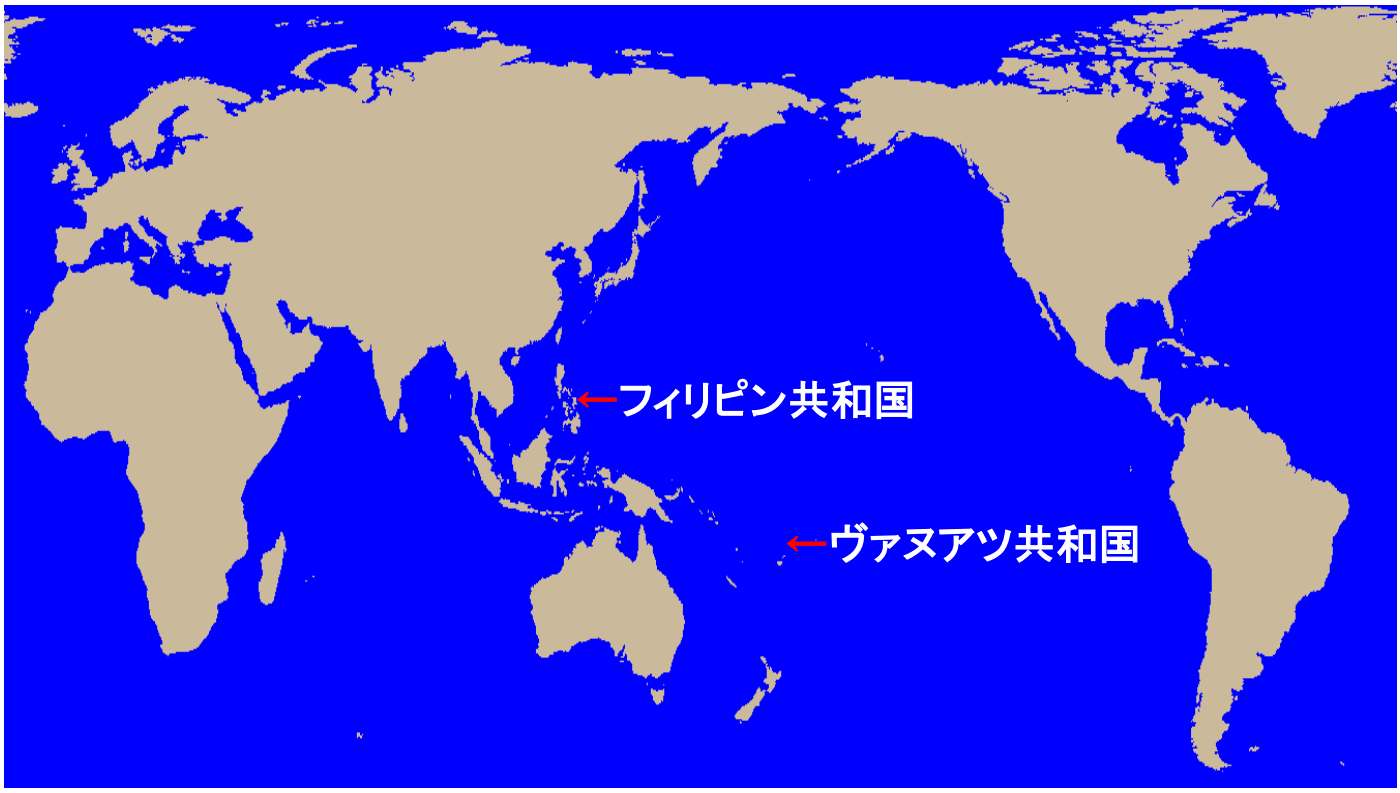
活動を始めて３０年という節目を機会に、内容を見直し、検討する時期に来ていると考えます。

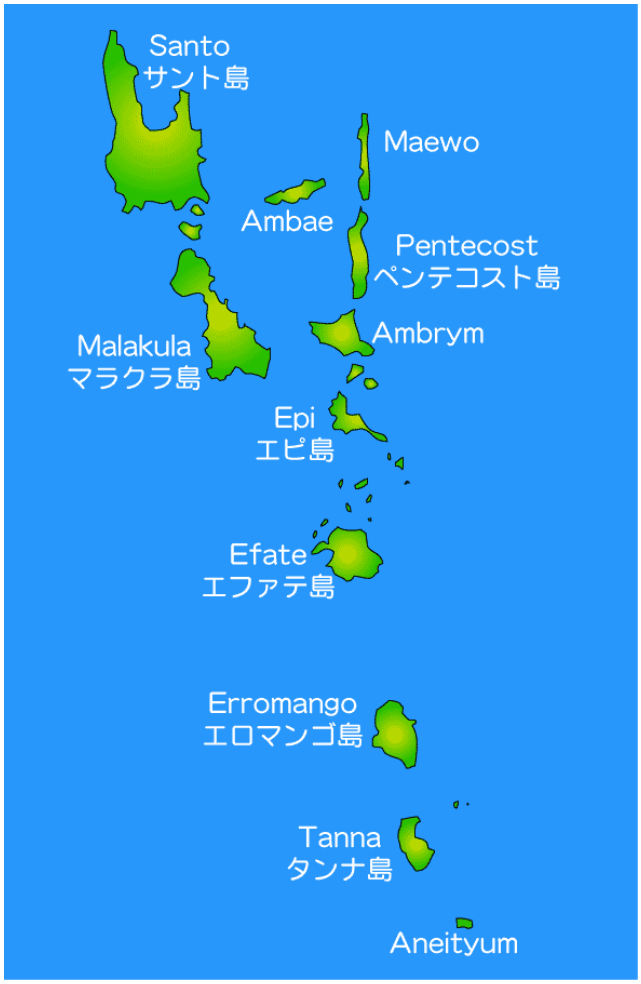
ボランティアの原点に戻り、物資の寄付では無く、歯科医療に関して現地の人々が自立できる環境を作れるような支援を考えていきたいと思います。

長年にわたり、継続して活動できるのも、御協力くださる会員諸氏の御理解とご支援のおかげと深く感謝しています。今後共宜しくお願い致します。

代表理事　沢田　宗久

活動地域紹介





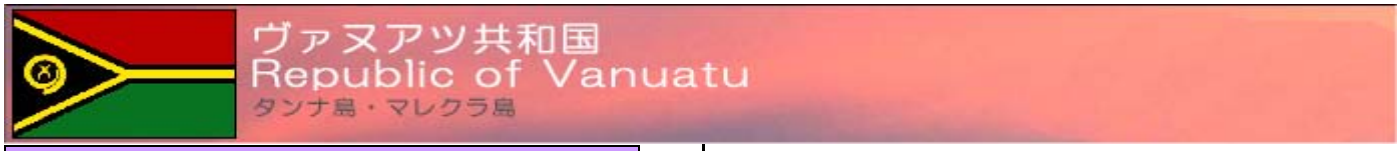
ヴァヌアツ共和国

紹　　介:８３の島から成り立つ
人　　口：約２３万人
首　　都：ポートヴィラ（エファテ島）
言　　語：ビシュラマ語、英語、仏語
宗　　教：ほとんどがキリスト教
寿　　命：不明
生産物：コプラ（ヤシ）、牛肉
活動地：マレクラ島、タンナ島

フィリピン共和国

紹　介：７,１０９の島から成り立つ
人　口：約８,８５７万人
　　カオハガン島の人口は約４５０名
首　都：マニラ（ルソン島）
言　語：フィリピノ語、英語、ビサヤ語
宗　教：ほとんどがキリスト教
寿　命：男６５歳、女７０歳（平均）
生産物：バナナ
活動地：カオハガン島（セブ州）

海外活動報告



7月ヴァヌアツ共和国

場所 ヴァヌアツ共和国 ・ タンナ島

期間　２０１２年7月７日～１６日

参加メンバー

（上段左から）山本喜代(A)　池之上竹美(J)　竹内恵利(V)
大西富子(H)　倉橋朋子(H)

（下段左から）ラッセル(D)　沢田宗久(D)　関根淳(D)

※歯科医師(D)　衛生士(H)　助手(A)　JICA(Ｊ)
ボランティア(V)

活動内容

7月7日（土）

18時30分関空組5名が関西空港からオークランドにむけて出発

7月8日（日）

８時25分オークランドに到着　9時30分にポートヴィラにむけて出発

12時に到着し荷物検査後、入国。空港でローリー氏に迎えられホテルに移動。ロビーで Dr 沢田とローリー氏がミーティング。夜に別便の Dr 関根が到着。メンバー6 人が揃い、この日はホテル宿泊。

7月9日（月）

10時25分ポートヴィラを発ち、11時過ぎにタンナに到着。迎えの車がくるのをしばらく待ち[病院で急病人が出た為、今回担当のサイモンがヴィラに同行することになり、バタバタしていた為]、病院にむかう。宿泊所と診療所に分かれて準備を行なう。メンバーが少ないうえに、女性が多く荷物を運んだり、準備をしたりするのが大変だったが、各々が無駄なく動き、どうにかその日のうちに準備できた。倉庫に保管していた冷蔵庫のコードが、ねずみにいたずらされていて、修理をして使用できるようになった。
台所用品が数点、不明になっていたが代用品を使うようにしてしのぐ。

Dr 沢田はヴィラに残り、WHO の事務所でドネーション（テント、石鹸、タオル、サッカーボール、鉛筆、帽子）をして、政府とミーティングをする。

7月10日（火）

Dr 関根　DH 大西　DH 倉橋　DA 山本　VO 竹内が診療所で治療を開始。昼過ぎに Dr 沢田が合流。

午後から、Dr 沢田　DH 倉橋　DA 山本　VO 竹内がレナケル小学校へ行き、ドネーション（クレパス、でんでん駒、歯ブラシ）し、歯ブラシで磨く練習をしてチェックアップする。

レナケル小学校のみんなが、国歌や校歌、JDM のようにきれいな歯の３曲を歌ってくれた。大合唱してくれて、胸いっぱいになり涙をこらえるのに必死だった。

Dr 関根と DH 大西が診療所で治療・クリーニングを行なう。

17 時頃　JICA 池之上と Dr ラッセルが到着。夕食をとり、その後ミーティングをする。

ヴァヌアツ親善大使の相川さんと VO スタッフのジミーが小学校や診療所を取材。

7月 11 日（水）

Dr 沢田　DH 倉橋　VO 竹内　JICA 池之上がディバイン小学校へ行き、歯ブラシとサッカーボール、バレーボールをドネーションした。

エプロンシアターで、むし歯の話をして、歯磨き練習、チェックアップ。数人ピックアップするが、病院までは遠く、近くにティミーがいるので、彼に任せることになった。

２校の予定だったが、トゥフー小学校はスポーツフェスティバルの為不在。

診療所は Dr 関根　Dr ラッセル　DH 大西　DA 山本が診療を行なう。

7月 12 日（木）

Dr 関根　DH 大西　JICA 池之上がトゥフー小学校へ行き、歯ブラシとサッカーボール、バレーボールをドネーションした。

前日と同じようにエプロンシアターと歯磨き練習、チェックアップし、治療が必要な生徒をピックアップし、明日先生が連れてきてくれることになった。

診療所は Dr 沢田　Dr ラッセル　DH 倉橋　DA 山本　VO 竹内が診療を行なう。

7月13日（金）

Dr 沢田　Dr 関根　Dr ラッセル　DH 倉橋　DA 山本　VO 竹内が診療する。

DH 大西　JICA 池之上がヤピルメイ小学校へ行った。

前日と同様で、その後ピックアップした生徒をつれて診療所へ帰ってきた。

午前の診療も長引き、昼ごはんを食べ始めたときに、ヤピルメイの生徒がやってきて、流し込むようにご飯を食べて、すぐ診療所に戻り治療を行なう。

レナケル、トゥフー、ヤピルメイの学校のピックアップされた子供達が治療に大勢やってくる。

レナケル小学校にぶんぶん駒の作品を受け取りに行った。夜にヤスール火山の見学に行くが、火山活動が活発のため入山禁止、第２駐車場から見学するがそこから見ても迫力のある噴火に圧倒される。ヤスールへむかう道も少し舗装されたところも多くなっていた。

安全運転してくれた病院スタッフの運転手ルーベンに感謝。宿舎に帰り、夕食後タンナ最後のミーティング、各々の感想、今後の診療に必要なものなど多くを話し合い就寝。

7月１４日（土）

朝から診療所と宿舎と分かれて後片付けをする。

９時 Dr 沢田　Dr ラッセル　JICA 池之上　イオ氏がミーティング。

昼前に後片付けを終え、病院から空港へ。途中、故田代さん（元 JDM メンバー）のセレモニーを行い、空港近くでランチ。空港に向かう頃、雨が降り始め、タンナ島との別れは、雨で締めくくられた。

空港で飛行機を待つ間に、ヴィラからタンナ島の便に日本人観光客が数人いて、話をするとヤスール火山の観光に行くとのこと。元気な紳士、淑女であった。

手書きの航空チケットを見ると、同じ座席番号が２つある…と、最後にタンナらしいほのぼのした空港スタッフに、このまま変わらずにいて欲しいと思い、タンナをあとにした。

１７時３０分ヴィラに到着後、ホテルにチェックイン。DA 山本が体調を崩す。DA 山本はホテルで休憩し、他のメンバーは近くの食堂で夕食をとる。

７月１５日（日）

朝から Dr 沢田　Dr 関根　VO 竹内　ローリー氏がミーティングを行なう。

１３時ヴィラからオークランドにむけて出発、１７時オークランドに到着　ホテルに宿泊。

Dr 関根はニュージーランド経由で帰路に着いた。

７月１６日（月）

８時２５分オークランドから成田にむけて出発、１７時５５分成田から伊丹へ。

１９時１０分伊丹に無事到着、解散式後解散。

データ

	7/10	7/11	7/12	7/13	総数
抜歯	１１	2	7	１５	35 本
CR	3	6	8	6	23 本
セメント	11	6	2	41	60 本
スケーリング	8	9	17	8	42 人
チェックアップ	6	1	1	0	8 人
シーラント	4	0	0	1	5 本
OPEN	1	0	0	0	1 本
TBI	1	0	8	0	9 人
HYS	0	6	0	0	6 人
切開	0	0	0	1	1 人
受信者数	24	16	27	43	110 名

学校健診数

レナケル	ディバイン	トゥフー	ヤピルメイ	総数
174	111	129	92	506 名

リーダーの総括

今回のＪDMの活動は歯科医師２名、衛生士２名、ボランティア２名、総勢６名で、７月７日から１６日まで１０日間の日程で行いました。

関空からオークランド経由で首都ポートヴィラに到着、関根淳さんは成田からニュージーランド経由で夜１０時頃我々と合流しました。

ボランティアとして初参加の竹内恵利さんはアメリカのオハイオ州の大学の留学生で、歯科医師を目指しておられます。今回は主に通訳、Dr のアシスタント、機材の準備等をして頂き、大変助かりました。

昨年、ヴァヌアツ政府の保健省と教育省とのミーティングの際、ウオッシュプロジェクト（手洗い）とウォータータンクプロジェクトについて話し合いました。その結果、今回、大阪船場ロータリークラブの有志の方々のご支援でタオル・石鹸・子供服・サッカーボール・帽子・テント・鉛筆等を寄付することができました。７月９日、ポートヴィラのWHO事務所で贈呈式を行いました。その様子はインディペンデンスウィークリー新聞や現地のＴＶニュースで報道されました。

９日から１４日までタンナ島で活動しましたが、今年は特にヤスール火山の活動が活発で、５０ｋｍ以上離れた飛行場まで火山灰が降ってきました。

今回気づいたことは、患者の多くが歯のクリーニングを希望するようになってきていることです。毎回歯ブラシのドネーションを行うことによって、島民の歯への関心が高まってきています、歯のチェックとオーラルヘルスケアは益々必要となってきました。また、今回も何度も「入れ歯を作れないか？」と質問されました、島民の多くは入れ歯作成を希望しています。沢山の歯科技工士の参加を心待ちにしています。

今回はマンパワーの関係で４校しか外回り（検診・ＴＢＩ・ドネーション）ができませんでしたが、口腔内を検診すると、以前ＪDMチームが予防、充填していたシーラントがきちっと残っている状況でした。この結果、今後予防処置に重点を置き、活動していく必要があると考えられます。

八尾市立南山本小学校とラナケル小学校との文化交流の面では、毎回違った企画を考えています。今回はぶんぶん駒で交流をはかりましたが、現地ではぶんぶん駒は珍しく大変好評でした。

今回は参加メンバーが少なかったのですが、それぞれのバイタリティを発揮して、多くの成果を上げることができました。皆様に感謝申し上げます。

沢田

11月フィリピン共和国

場所　　フィリピン共和国・カオハガン島

期間　　２０１２年１１月２１日～１１月２５日

参加メンバー

（上段左から）石原広(D) 合田健志(D) 上崎秀美(D)
今村ちひろ(D) 矢沢優菜(D) 田中恵(H)
長家茉耶(D)

（下段左から）黒川加奈子(H) 伊藤晴夫(V) 沢田宗久(D)
杉石真美(H) 垣内万智子(H)

※歯科医師(D)　衛生士(H)　助手(A)　ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ(V)

活動内容

１１月２１日（水曜日）

今回は成田空港から５名と崎山さんが同行。１８：３０頃にセブ空港に到着。関空からは５名、現地合流の２名が先に着いており、計１２名プラス崎山さんで車２台に乗りハドサンビーチへ出発。そこから船に乗り一路カオハガン島へ。

この日は引潮のため浅瀬であり、カオハガンの沖合いで船を止め、そこから小船に乗り移り、ようやく２０時過ぎにカオハガン島に到着。一軒の２階建ての豪邸が建っていて、そこからディスコ調の音楽も聞こえて賑やかだった。夕食を終え、明日からの活動内容についてミーティングを行った。

１１月２２日（木曜日）

島に滞在している香織さんがオープンさせたカフェ（ヒーナイヒーナイカフェ）ができていた。通常は９時からのオープンだが、特別に７時からオープンしてもらい、みんなでコーヒーやマンゴージュースを注文した。

朝食は通常８時からだが、９時からの診療が忙しいため３０分早くしてもらった。余裕を持って９時から診療ができるようにした。３０分早いとだいぶ違う。落ち着いて９時からの診療を迎えることができるため、今後も３０分早くすると良いと思う。

今日は小学校へドクター２名と衛生士２名が出向き、他は診療所の担当。小学校ではドネーションとして画用紙と歯ブラシを渡し、その後媒体で紙芝居を行った。どうしたら虫歯にならないか、また歯の役割などをクイズにして理解を深めた。次に海で染め出し、ブラッシングの指導を行った。

診療所では準備を始めるが、暑くてみんな汗だくの状態。扇風機３台を用意してもらい、ようやく涼しくなってきた。そしてチェックアップを開始。

昼食を取り、休憩した後、午後は担当を交代し、午前中の小学校組みが診療所へ、診療所組みが小学校の担当とした。午後も受診者は多く、先生たちはフル回転の状態。カオハガン島以外の島からも１０名以上が診療に来ていた。今日はスクールのチェックアップを含め１２８名の受診者だった。

１１月２３日（金曜日）

今朝もヒーナイヒーナイカフェで、コーヒーやマンゴージュースなどを飲んだ後に、7 時半から朝食。今日は全員で診療所へ行き、ドクター７名体制。

開始と同時に受付には１０名以上が列を作って待っている状態。チェックアップを行い抜歯用の部屋またはＣＲ用の部屋へ誘導。患者はパンダノンから来た人が大半を占めていた。自ら抜歯を希望する人も多く、一度に５本以上を希望する人もいた。次から次に患者が訪れ、みんな休憩する時間も無く、汗をかきながら診療に当たっていた。

昼食をはさみ、午後も午前と同様の体制で１４時より診療開始。既に列を成して待っている。相変わらず抜歯希望が多い。

１５時過ぎにはチカラ水（カラマンシー）が差し入れされた。みんな水も飲まずに診療を行っていただけに、このチカラ水はほんとに美味しくチカラになる。

今日はタコが取れたようなので伊藤氏は４時過ぎからタコ焼きの準備に取りかかる。崎山さん、香織さん、大学生で滞在しているゆうこさんも楽しみにしてくれて、出来上がったタコ焼きをおいしそうに頬張っていた。

夕食を終え明日のミーティングをして終了。今日は７７名の受診者でなんと抜歯１９３本で昨日の３倍以上となった。

１１月２４日（土曜日）

今日は午前中のみの診療で、１１時には受診者のチャックアップを終了。相変わらずパンダノンの受診者が多かった。抜歯者が多かったのもあり、ビニール手袋が不足してしまった。その後片付けと在庫のチェック。

昼食をした後はフリータイム。伊藤氏を中心に運動会の準備をする人も。３時半からはポントグで運動会を実施。５種目を行った。今回はじゃんけん大会を初めて試みたが、

景品を欲しいこともあるのか、子どもたちほとんどが後出しじゃんけん。この企画は失敗だった。最後は綱引きだったが、ＪDM vs カオハガン（大人）で締めくくった。
最後の夕食は恒例の屋外でとり、参加者一人ずつ感想を述べてすべて終了。

１１月２５日（日曜日）

帰りの成田組は４名で、干潮のため３時半に出発。関空組は朝食をとった後に出発。みんな無事に帰宅した。

総括

今回は歯科医師７名、衛生士４名、ボランティア１名の合計１２名で活動を行いました。

メンバーは、北海道、新潟、東京、岡山、神戸、大阪の各方面から参加して頂きました。歯科医師が多かったので、診療の流れがスムースで治療がはかどりました。

学校検診は、Ｄｒ２名、衛生士２名でローティションを組んで行いました。

小学校でのブラッシング指導では、衛生士さんが英文で媒体を作ってくれていたので、生徒達に分かりやすく教えることができました。

今回は抜歯が多かったので、材料の消費が多く、特にガーゼ、グローブ、薬が底を尽きました。今後の課題として、在庫管理を徹底しなければならないことを感じました。
又、いつもながら、義歯（入れ歯）の要望が多く、来年２月の活動時の義歯作製予約が満杯になりました。
歯科技工士さんのご参加をお待ちしています。

活動期間は短かったのですが、参加者の皆様には、モチベーションを充分に発揮して頂き、沢山の患者さんを診ることができました。

カオハガン島での活動は１６年目になりますが、我々の活動を通じて、島民のナノイ・エッジさん（女性）が、将来、歯科医師になり、島民の為に貢献したいと考え、今年セブ島に所在する歯科医科大学を受験、見事合格しました。

彼女の家庭は経済的に恵まれておらず、大学進学は大変厳しい状況でした。しかし、優秀な人材に経済的な理由だけで夢を諦めさせる訳にはいかないと思い、卒業までの６年間、個人的に援助をさせて頂くことに致しました。

エッジさんにお会いしてみると、誠実で優秀な人物でしたので、安心しました。今後の彼女の活躍を期待しています。

今では、カオハガン島を中心に、周りの沢山の島々から島民達が、歯科治療に訪れるようになりました。
「継続は力なり！」と言われるように、我々の活動が根付いてきていることを実感致しました。これからも、島民の健康の為、尽力してまいりますので、皆様方の御支援、宜しくお願い申し上げます。

沢田

データ

治療結果

	22日	23日	24日	合計
抜歯	61本	193本	84本	338本
CR	16本	11本	13本	40本
セメント	31本	14本	5本	50本
サホライ	0本	0本	0本	0本
根治	0本	0本	0本	0本
SC	2人	10人	5人	17人
義歯修理	4人	0人	0人	4人
Check Up	61人	1人	4人	66人
その他	0本	1本	1本	1本
合計	175本	230本	112本	516本

	22日	23日	24日	合計
カオハガン	21人	27人	11人	59人
カオハガンスクール	86人	1人	0人	87人
パガンアン	4人	0人	2人	6人
クアミング	0人	0人	0人	0人
カブルアン	1人	0人	6人	7人
サンタロッサ	0人	0人	0人	0人
バンダノン	11人	49人	20人	80人
セブ	0人	0人	0人	0人
ボホール	0人	0人	0人	0人
パシル	3人	0人	0人	3人
アグス	2人	0人	0人	2人
キルットナンアン	0人	0人	2人	2人
無記入	0人	0人	人	0人
合計	128人	77人	41人	246人

2月フィリピン共和国

場所　　フィリピン共和国・カオハガン島

期間　　２０１３年2月６日～2月１１日

参加メンバー

（上段左２番目から）中辻孝一（T）上崎秀美（D）

河内光明（T）大西富子（H）倉橋朋子（H）

栗山雅行（V）濱佐智代（H）橋口敦（T）

中田有香（D）香織さん（ｶｵﾊｶﾞﾝｽﾀｯﾌ）

（中段左から）近藤理沙（H）松田ゆりこ（H）

（下段左から）崎山氏、順子氏、今村ちひろ（D）

沢田宗久（D）佐川寿会（H）新井広恵（H）

田岡則子（D）

※歯科医師(D)　衛生士(H)　技工士(T)　ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ(V)

活動内容

２月６日（水曜日）

今回関空組、成田組とも遅れがあり、マクタン到着、合流は１９：３０頃カオハガン島には２０時３０分ころの到着。夕食を取りつつミーティング、自己紹介などをする。

今回は、義歯中心のシフトですすめる。検診チームは、媒体、TBI、チェックアップし、治療が必要な子供は、強制的にバランガイホールまで連れて行き、治療の継続管理を推し進める予定。

２月７日（木曜日）

前回より朝食７時半スタートにしてもらいスムーズに９時から診療開始できるようになる。まず目標の義歯作製１５名を午前中に印象すすめる。

技工士さんたちは、ホールの裏の風通しよく、海が見える場所での機器設置となる。

検診班は、状況をみて小学校へ移動し、媒体、TBI、チェックアップとすすめ、午後からはホールもごった返し、スタッフそれぞれが自分のできることを探し、協力して治療を進めていった。

午後、一部発電機の不調により機器が止まり、困った点は明日から母屋より送電してもらうことにより解決する。

２月８日（金曜日）

一名の体調不良者が出たため、栗山Ｖとエマさん付き添いでマクタンの病院へ。

今日は検診チームにＤｒ沢田が同伴し、絵具、車いす、歯ブラシ、医療用エプロンなどのドネーションも行う。

診療班は、集中して咬合採得、一般診療をこなしていった。

他島からの患者もいて、なかなか予定どおりには進まないこともあったが、２日目も順調に進行。

結果的に、１名の体調不良者は、インフルエンザ入院ということになり、その点は非常に残念であった。

２月９日（土曜日）

診療は続けながら　義歯セットの最終日となる。

本日は、奨学生でセブの歯科大学へ通うエッジ・ナノイも合流し、活動に協力。

予定外の作製、修理も加わり、技工士さんたちの疲労もピークとなるが、全員の協力により無事終了する。

夕刻、恒例の映画大会は途中雨による中断もあったが、皆楽しく鑑賞していた。

２月１０日（日曜日）

９：００より診療開始し、１０時過ぎからは徐々に片付け始める。機器の作動チェック、荷物の在庫管理調査とパッキング。１１時過ぎには撤収作業、清掃終了し、昼食後はフリータイムとなる。

今回は昼の潮周りがよく、ボートを出せたので、サンゴ保護区の視察をかねてシュノーケリングチームと魚釣りチームに分かれて最終日の労をねぎらう。

その後は１５時半より恒例の大運動会！プログラムは、リレー、お玉リレー、玉入れ、綱引き、大縄跳びなどで子供たちの笑顔が広がった。

賞品の古着、歯ブラシなどの配布も行う。

夕刻には､タコも手に入り恒例のタコ焼きも開催される。

夕食後は、最終ミーティング、最終の活動報告、ひとりひとりの反省や感想、Dr 沢田による総括コメントがあり、メンバーで過ごす最後の夜を楽しんだ。

２月１１日（月曜日）

潮周りが悪く、５時２０分、母屋集合し、浅瀬を歩いての乗船となる。リーフエッジを迂回して８時頃のハドソン到着。入院メンバーのピックアップに２名が行き、他はマーケットにて朝食をとり、空港合流となる。

総括

今回は、歯科医師５名、歯科技工士３名、衛生士７名、ボランティア１名で、
仙台・東京・静岡・大阪・奈良と多方面から参加して頂き合計１６名で
活動を行いました。初参加者も多かったのですが、それぞれの持ち味を生かして、頑張っていました。

以前は、毎回技工士が参加して入れ歯を作製していましたが、１０年程前からは２月チームでのみ入れ歯を作製するようになりました。昨年１１月のフィリピンでの活動中に､すでに１５名の入れ歯を作って欲しいとの予約があり、今回殆どの予約患者が遠い島からも、来院しました。当日それ以外に１５名を追加して、３０名の患者の入れ歯（３０床）を作製しました。技工士は、河内・中辻・橋口とベテラン最強メンバーでしたので、スムーズに行うことができました。

最終日の終わる間際に島民の患者さんが来院し、口腔内を診ると義歯破損と上顎前歯部に残根があり、粘膜異常によりフラビーガム（潰瘍）を起こしていたので、早速、治療にとりかかり、デンチャー印象（入れ歯の型取り）⇒残根抜歯⇒止血の間に模型作製し、蝋にて噛み合わせ採取⇒

デンチャー作製⇒デンチャーセット⇒調整。

これを、たったの２時間で終了することができました。ドクターと技工士との連携の素晴らしいチームワークでした。

２００６年から島の子ども達の追跡調査をおこなっていて、その中の１人サマリノ・ジョマールさんは、１６歳にして上顎に歯が３本しか残っていませんでした。

本人はとてもシャイな性格で恐怖心から治療を拒み続けていましたが､今回やっと彼女は治療を受ける決心がつき、入れ歯を作製しました、ジョマールさんは素晴らしい笑顔を取り戻しました。その時廻りから拍手がおこり、とても良い空気が漂いました。

毎回小学校の生徒達に、歯ブラシや文房具をドネーションし、歯の検診も行っています。口腔衛生と予防処置（シーラント）に力を入れているので、島民の歯科に対しての意識レベルも高まり、虫歯も減少しつつあります。
又、カオハガン島以外の周りの島々からの患者が年々多くなっています。

「継続は力なり」と申しますが、継続の重要性を感じました。これからも、島民の健康維持と口腔衛生向上の為、努力して行きたいと考えています。

データ

治療結果

	7日	8日	9日	10日	合計
抜歯	63	91本	39本		193本
CR	14	18本	15本	2本	49本
セメント	51	45本	15本		111本
SC	4人	12人	7人		23人
義歯修理	2人	2人	2人		6人
義歯	18人	6人7床	15人24床		39人31床
検診	34人	37人	3人		74人
人数	77	87人	49人	1人	214人

島別受診者	
カオハガン	60人
カオハガンスクール	65人
パンガアン	14人
クアミング	0人
カブルアン	8人
サンタロッサ	3人
バンダノン	34人
セブ	4人
ボホール	0人
サンビセンテ	1人
合計	189人

海外活動参加者の声

竹内　恵利（ボランティア）

ヴァヌアツ参加感想文

忘れられない笑顔、思い出、経験、感動をありがとう！
今回は　大学からの支援と、家族のサポート、友達の応援の元で、初めて歯科のボランティア活動に参加させて頂きました。将来は絶対に歯医者さんになりたいという夢に　ひたすら走ってきた何年間でしたが、勉強だけじゃなく、もっと患者さんと関わってみたい、もっと近くで先生たちの治療を見てみたい、もっと歯医者さんとしての仕事を知りたい、もっと人の役に立ちたいと、そう言うウキウキワクワクの気持ちで出発の日を待ち続けました。タンナ島についてからは診療所の準備や、ゲストハウスでの準備など、いろいろな準備が始まり、初めて歯科用のマスクと手袋を着けた時はとても心がはずみ、胸が高鳴りました。また、カルテの記入方法、医療器具の洗う方法、麻酔注射の設置方法、基本セットの準備方法など、たくさんの事を親切な皆さんから毎日学んで行きました。診療所では、先生たちが抜歯する時や、フィリングする時、アシスタントとしていろんな事を間近で観察する事が出来たので　とても勉強になりました。抜歯して抜けた歯など　とても不思議で、何度も触って視たり写真を撮ったりました。外回りでは、学校へ行き　歯ブラシのやり方を英語で通訳したり、一緒にサッカーボールなどで遊んだり、子供たちの歯を検診する時のカルテを記入するなど、楽しい事をたくさん経験させて頂きました。子供たちの元気強い歌声、生き生きしている目、輝く笑顔、そして忘れられない『またね』の挨拶、ほんとうに感動の連続でした。

お父さんみたいに心強い沢田先生を始め、お兄さんみたいに頼れる関根先生、お母さんみたいに何でも教えてくださる大西さん、お姉ちゃんみたいに優しくて面白い倉橋さんと山本さん、本当に家族の用に支え合い、泣いたり、笑ったり、忘れられない思い出を共に作る事ができ、最後のミーティングの時は必死に涙をこらえながら　皆さんに出会えて良かった！バヌに来て本当に良かった！と言う思いでいっぱいでした。皆さんのおかげさまで、今回の活動は　より、忘れられない経験、感動、思い出でいっぱいになりました。本当にありがとうございます。世界中の人々がすばらしい笑顔を持ち続ける事が出来るように　これからも一生懸命歯医者さんの道を歩んで行きたいと思います。そして、今度は絶対に歯医者さんになって JDM に戻ってきたいです。ボランティアのすばらしさを教えてくれて本当にありがとうございます。

石原　広（歯科医師）

カオハガン活動（２０１２．１１）　感想文

ＪＤＭの皆様こんにちは！今回、北海道から初参加した石原　広（Ｄｒ）です.

大学時代の同期で親友である、ジャイアンこと合田健志さんと久しぶりに再会した際に偶然、ＪＤＭの話を聴き、即座に「行きたい！！」と思い、ＪＤＭやカオハガン島の事を、ろくに調べもせずに参加申し込みをしてしまいました。

私は、ヘルスプロモーション型歯科医院から、地域の新しいコミュニティを創造することを目的に半年後の開業を控えています。今回の活動でどうしても確かめたいことがありました。それは、「世界では今何が起こっているか？」「医療の本質とは、豊かさとはどういうことか？」を感じる事でした。

私が日本でこれまで「１＋１＝２」という、答えが一つであることが正解の教育を受けてきました。そして近頃、日常生活でも仕事でも「～しなければならない」と自分に枠を勝手に作ってしまって窮屈さを感じることが多くなってきたと感じてきました。さらに、子供でもお金を出せば大人にサービスを受けたり、交渉事を持ちかける、等価交換の考えが蔓延していると感じます。私も他人とコミュニケーションをする際に、どこか他人を探ってみてしまったり、駆け引きをしたり、メリット、デメリットを考えて対応しているなと感じていました。そんな日常にどこか引っかかっていました。

しかし、カオハガンでの生活は、自給自足が基本で自然に生かされている生活でした。活動では即席のメンバーにもかかわらず、「島民のために」の合言葉のもと、何とかしたい、やってみようとメンバーそれぞれがパートナーシップを発揮して、お互いを尊重しながら今できることをやりきっていました。私はそんなみんなにひっぱられるようにいきいき活動している自分に気が付きました。すごい一体感やチームワークを感じました。そして島のみんなに笑顔が溢れていました。

今回の活動を通して「豊かさ」とは、自分が必要とされていると誇りを感じることと人を尊重できる関わり合いではないかと思います。「答えは一つではない」「こういう生き方もありだな」と感じることが出来ました。

自分を受け入れてくれたメンバーのみんな、今回の活動の準備を 10 年以上も継続して続けてこられたＪＤＭの関係者の方々、そして「ヒローシ」と名前を連呼してくれたカオハガン島民に感謝します！！

北海道の天然パーマ　ひろし

杉石 真美（歯科衛生士）

カオハガン島のボランティア活動に参加して

今の自分に出来るボランティア活動を探している中、JDM を見つけ、参加を決めました。
初参加でしたが、沢田先生に、小学校で媒体を使って歯磨き指導をする機会を作って頂き、未熟ながらもやらせて頂くことができ、貴重な経験となりました。紙芝居式に、どうして虫歯ができるのか、出来ない様にするにはどうしたらいいのか、それをわかりやすく伝えて理解してもらうことが目標でした。しかし、実際、口腔内を見て愕然としました。今まで見てきた口腔内とは全然違い、歯の大切さから伝えなくてはならないと思いました。そして子供たちだけではなく、親、学校の先生にも伝えて一緒に協力して子供たちの歯磨きの習慣をつけてもらう必要性も感じました。どうしても歯磨き出来ない時はうがいを、ということは蛇口をひねったら普通に水が出てくるから言えること。うがいは海水。だから、とにかく食べたら歯磨き。この点も文化、環境の違いを大きく感じた点です。理想的な治療を行う設備が充分に整える事が難しいならば、虫歯予防は尚更必要で、今回私が行った指導の反省と共に、歯科衛生士としての課題が見えたような気がします。
島はとても自然が豊かで、島の方達も素敵な笑顔で気さくに話しかけてくれて、目も心も豊かにしてくれる本当に素敵な島だと思いました。子供達の純粋で無垢な表情に、最終日、運動会で何故か少し涙ぐみました。今回、参加させて頂いた事を心から感謝しています。又、自分なりに課題、目標を見つけて、また参加させて頂けたら嬉しいです。

矢沢 優菜（歯科医師）

カオハガンでの活動　感想

今年の 3 月に縁あって、学生の集まりでカオハガンに 1 週間ほど滞在する機会があった。その時に偶然、毎年日本の歯科医師がカオハガンを訪れボランティアで歯科治療をしていることを知った。
国内でのボランティア活動に参加したことはあっても、海外でのボランティア活動は今回が初めてで、しかも内容が歯科治療。今年の 4 月から歯科医師になったばかりの私が何ができるのだろう。しかし、それと同時に大学病院での設備も時間も十分にある世界しか知らない今の状態で、このまま 1 年間なんとなく研修医を終えてしまって良いのか、カオハガンに行けばまた新たなことが学べるのではないか、自分が少しでもできることがあるなら行ってみたい、という気持ちから今回参加さ

せていただくことにしました。いざ島民の口腔内を診て自分が前回全く口の中を見てなかったことに気づくとともに、子供から大人まで残根だらけの島民の口腔内状況に驚かされました。小学校で TBI をしてクイズなどに答えているときは、歯磨きは大切、いつ歯を磨けば良いかなども答えられていたが、実際の口腔内は、う蝕が多い子が多かった。また大人も C4 で自ら抜いて欲しいと言っている方が多かった。歯科治療をするだけでなく、島民に歯を残す必要性も一緒に伝えていく必要性があると感じた。
今回の治療では、できないことも多々あり多くの方に助けていただき、また教えていただきとても感謝しています。そしてどんなに治療に時間がかかっても必ず最後にありがとうと笑ってくれた島民の方、口腔内を診せてくれた子供達にも色々と学ばせていただき、とても感謝しています。
また次に行く機会があれば今度はもっとコミュニケーションを取りながら活動ができればいいなと思いました。

長家　茉耶（歯科医師）

カオハガン島での活動を終えて

ボランティアという活動をすることがどういったものなのか、また自分が他人にできることは何なのか、そんな疑問を持ちつつ経験したいという思いが子供の頃からありました。今の私はまだ歯科医師として未熟で言語的コミュニケーションも苦手、だから今の状態で参加することで迷惑を掛けてしまうかもしれないという不安がありました。それでも社会的、技術的、経済的に私自身がどのような印象を受けるのか、この経験が今の私の中で何かきっかけをもたらす価値あるものになりそうな気がして今回の活動に参加させていただきました。

崎山さんの本を読んで島をイメージし、過去の活動レポートを読み島の歯科事情を予習、私が受けた印象はほとんど抜歯。抜歯なんてほとんど経験ないし、とりあえず活動までに経験値を上げなければと、専攻する矯正科で便宜抜歯を数本経験…。けれど、いざ活動開始と共に想像を絶するほど自分の無力さを痛感しました。保存処置もろくにできない、抜歯はできない。ワイヤーと向き合う道を選んだものの、実際にこのような医療が行き届かない場で困っている人たちの助けとなる技術が自分には全くありませんでした。間違った道を選んだとは思いませんが、なぜ歯科医師になりたかったのか、ボランティアをしたかったのかを自問自答する度に悔しさで泣きそうになりました。しかし、診療所の前にはたくさんの島民、周りのスタッフはフル活動、もう逃げ出すことはできない。周りの先生方が難なくできることは私も頑張ればできるはず、だから自分にできることを無力ながらもするしかない。そう思い私のスタイルで診療を行うことで、患者さんと接し合い処置を行うことができました。最後まで抜歯には苦戦し何度も周りの先生方に助けていただきましたが、今活動を終えてみて治療に対する心構えが少し変わったような気がします。

このカオハガンでの活動は書ききれないほど様々な印象を受けることとなりました。島民の生活やその中での笑顔、優しさ、またそれを取り囲む自然、崎山さん、JDM の活動…5 日間だけなのに本当に素晴らしい経験ができました。帰国した今思うことは、今よりもっと貢献できるようになって、また必ず参加したいという思いです。この活動で出会った全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです、ありがとうございました。

田中　恵（歯科衛生士）

カオハガンでの歯科ボランティア終え

カオハガンでの歯科治療は日本と違っていた。日本では歯科医院があるため治療に通うことができるがカオハガンでは通うことができないため治療の範囲が限られてくる。そうすると抜歯が多くなる。できるだけ歯を残すようにC処置をしたいが、う蝕が多いため全てを治療するのも難しい。島民も痛くなるくらいなら抜いて欲しいと訴える人も多い。この状況から抜け出すには、う蝕になる前に予防することが大切になってくる。杉石さんと私は小学校に行き媒体を使い歯磨きの大切さ、歯の大切さを指導したが、これは子供だけではなく大人への指導も大切だと感じた。子供達の口腔内を診たとき正直驚いた。多くの子供が、う蝕で歯冠崩壊していた。歯磨きの後のうがいも水道からでる水ではなく、海水でのうがい。ここでは水の大切さを改めて感じた。子育てをする親に指導すること、それと小学校で先生による歯磨き指導を授業でとりいれられたら良い状態に持っていく事ができるんではないかと感じた。予防を広めるにはもう少し時間がかかるだろう。だけど決して諦めず根気強く島民たちを応援していきたい。

島民たちの暮らしはとてもシンプルで笑顔がたくさんの生活だと思った。年上の子供達が年下の子に歯を磨いてあげてる姿には心が打たれた。学ぶことがたくさんありすごく楽しく活動ができた。

今村　ちひろ（歯科医師）

カオハガン感想文

カオハガンからセブ島まで船で30分程。すぐそこに色んな文明が発達した島があり本気になればきっと島に文化もっと取り入れることができるはず。でも、そんなこと必要がない。カオハガンには美しい笑顔が沢山存在する。理由は全てわかりきらなかったけど、今を満足し島民お互いがお互いを思いやり、一人一人、存在を確認しながら生きているなと思いました。カオハガンの子供たちの笑顔にとても癒されました。

それともうひとつ、文化の違いを痛感しました。日本では、minimum intervention でそして、必死に歯を残そうと予防、修復や根管処置を行う。どうしようもなく抜かざるを得なくなったら患者さんに説明をし、抜歯する。

次に欠損部位を何をもって補うかを考える。 でも、それは条件付きの人に言えること。すぐそこに歯科医院がある。通うことができる私達だからこそ選択できる治療法なんだということ。それを痛感しました。島民にとって治療は一年に二回だけ。治療の選択してる暇はないんだなと思いました。この文化の違いを受け入れていくことが、今後、私がこのカオハガンチームに参加するにあたっての課題なのかなと感じました。
今回、ボランティアに参加することができたのも、お休みをいただけた職場の院長のご理解があったから、そして長年にわたりこの活動を積み上げてきていただいた沢田先生、上崎先生、栗山さん、そしてその他のメンバーの皆様のおかげだと思っています。ほんとにありがとうございました。

田岡　則子（歯科医師）

カオハガン島での活動について

「お姉さん、フィリピンでボランティア活動してみませんか？とっても楽しいですよ」という義理の妹からの声掛けが JDM を知るきっかけでした。私は今までボランティア活動をしたことがなく、しかも新しいことに挑戦するのがとても苦手なタイプ。こんな私が海外でボランティアなんて、できるんかな？というのが最初の思いでした。でも、毎日の診療に追われ余裕がない生活を送っている自分にとって、これはいい機会になるかもしれないと思って今回初参加となりました。

最初は不安ばっかりで、こんな私がなにか役に立つことができるのだろうか？とそんなことばかり思っていました。東京で合流した濱さんも今回初参加ということで、二人でフライト中「大丈夫かな？」と言い合っていました。

セブ島で関西組と合流し、そのまま船でカオハガン島へ。到着すると母屋へ集まり自己紹介があり食事を頂きましたが、今思い返してみても記憶が曖昧で、それだけ緊張していたんだなと思います。

その日の晩は明日の診療のことを思い、眠れませんでした。でも用意された C 棟はランプで照らされ、竹の床にベッドがありとても雰囲気のいいお部屋でした。

一日目の診療は怒涛のように済んでいきました。一日目は印象メインでしたが、ベテランの方たちに印象は任せて、私は抜歯・充填を主に行いました。いつもの診療なら根治を行う歯でもカオハガンでは行えないため抜歯判断になっていました。若い方でも既に多数抜歯されている姿を見ると、治療も必要ですが予防の重要性を改めて感じました。

充填も十分な設備がない中、どこまで治療を行うのがこの方にとって最善な治療になるのかと迷うところがありました。日本ならう触を取りきり、それで痛みが出た場合は抜髄を行いますが、ここではそのようなことはできないため、除去できるところまで、う触をとって充填を行なっていきました。いつもの診療とは違う判断で診療を行なっていかなければならないため、判断するまで時間がかかってしまったりして、患者さんには迷惑をかけてしまったと反省しています。

２日目からも抜歯・充填を行なって行きました。暑い中、診療時間前から並んでくれている患者さんをみて、今自分の持てる力を最大限に発揮して診療を行おうと努力しました。治療中、機械が止まる・水が出ないなどの

トラブルはしょっちゅうで、そのたびに現地のトッペルさんにお世話になりました。トッペルさんは日本語で話しても理解してくれて、忙しい中診療に貢献してくれました。また、他の現地スタッフさんも薬や治療の説明をしてくれてとでも助かりました。

診療は緊張の連続でとても疲れたのですが、その後の食事はすごくおいしくて幸せでした。他にも揚げバナナやアメフラシの排泄物などその土地ならではのものを食べることができて、驚きの食事は毎日の楽しみでした。

また、海岸を散歩すると、今までみたこともないような景色を見ることができ、夜には満天の星空が見れて楽しい時間を過ごす事ができました。

今回カオハガンでの活動に参加するにあたり、もちろん現地の方の役に少しでも立てたらいいなという気持ちもありましたが、それに加えて自分の人生も見つめ直したいと思っていました。

一緒に参加した他のスタッフさんをみると、皆さん自分の仕事はプロフェッショナルな意識を持って行なっていて、現地の方とのふれあいは人間味溢れる交流を行なっていて、スタッフの皆さんはほんとに心が豊かな方ばかりだなあと感じ、仕事ばっかりに追われている自分は心に余裕がないんだなぁと感じました。この活動をきっかけにもっと積極的にいろんなことに挑戦していきたいと思いました。

最後になりましたが、カオハガンの方々、様々な協力をしてくださった現地スタッフの方々、診療を支えて歯科医療だけでなくいろんなことを教えてくださった JDM のスタッフの皆さんに感謝します。ありがとうございました。次回参加できたなら、水着とカメラを持ってさらにカオハガンの生活を楽しみたいと思います。

新井　広恵（歯科衛生士）

カオハガン初参加

実のところ、カオハガンが初参加というか、私はボランティアが初体験でした。11 月に参加した杉石さんから体験談を聞き、すぐに参加を決めました。

実際に自分で参加してみて、人として当たり前に持っているはずの感性に目覚めさせられる思いがしました。

杉石さんから聞いた時も「すごいなぁー」って漠然とおもいましたが、聞くことと体験することには違いがありました。

微力であっても、人の役にたてるという実感に、日本にいた時同じ仕事をしても、得ることのできない、人から心のこもった感謝される喜びを強く感じるとこができました。

短い期間の為に入歯作成には限りがあり、多くの人が入歯を望む中、断らなければならない場面に遭遇し、先生も作ってあげたいと思っても、「NEXT YEAR]って言わなければならなく、患者さんは涙ながらに懇願し、それでも「NEXT YEAR]と言わなければならない先生。二人の気持ちの葛藤を目の当たりにして、言葉がありませんでした。

私は衛生士なので、技工の手伝い入歯作成などはできず、もう一つ作ってあげては？等と言えるはずもなく、技工士さんは既に限界を超える数を受注していらっしゃいましたから。正直、衛生士は微力だなぁーとがっかりしました。衛生士のできる仕事の範囲がもう少しあったら？って残念な思いがしました。

私は先生と技工士さんが作りあげた入歯の使い方、手入れのしかたの説明程度の協力しかできませんでした。

そして、現地の方は英語が通じない方も多く、現地の方の通訳協力を得なければならなかったりと、ホントに自

分の微力さ感じました。現地語を勉強してから次回参加できたらと思いました。
小学校での保険指導も、言葉の壁を感じました。現地語で説明できたら、もう少し理解してもらえるのでは？って思い、歯がゆい思いがしました。
子供達の笑顔はとても純粋でかわいく、元気をもらう事ができました。
カオハガンでの生活は正直、都会育ちの人間には初めてな事ばかりで、電気、水のありがたみを改めて感じることもできました。
普段、機密性の高い家に暮らしている為、蚊や虫、生物の鳴き声に悩まされたり、また雨漏りなどは経験がありませんでしたので、とまどい、情けないと思いますが、悲鳴をあげてしまいました。
医師のいないボランティアを必要とする場所なのですから、不便があって当たり前と思うべきでしょうに、沢田先生をはじめ、複数経験者の方々には、小さい事で騒いでしまう私等は、少々足手まといな存在になってしまったのではないかと、反省しております。申し訳ございませんでした。
率先してツリーハウスに滞在してくださった、大西さん、倉橋さんには頭の下がる思いでいっぱいです。例え経験者の方でも、蚊をはじめ、虫等と共生は大変だったのではないかと？その中で、現地の方々への熱いボランティア精神、素晴らしいとおもいました。
今回の全ての経験、素晴らしい方々との出会いが、とても貴重な体験として心に残りました。
今まで世界各地を旅行してまいりましたが、現地の方々の生活の中に入り、自分の微力を役立てる経験をさせていただいたこと、この先生きていく糧にさせていただけるとかんじました。
皆さん、本当にありがとうございました。

松田　ゆり子（歯科衛生士）

『活動で学んだ事』

海外での初ボランティア活動、楽しみや不安が入り混じっての活動が始まりました。小学校での媒体や保健指導は慣れた様子の子供達に助けられ、無事に終える事ができました。染め出し・ブラッシング指導では、高学年のカリエスの少なさ、そして低学年(特に５歳以下)の生徒達のカリエスの多さに驚き、そしてまたＪＤＭの皆様が保健指導や予防充填を続けて下さった成果を間近で見て、それに自分自身も携わり歯科衛生士として予防の大切さを改めて実感しました。

診療所では、日本とは違う診療の雰囲気に驚く事がたくさんあったのですが、沢田先生がおしゃっていた『知識があっても知恵がなければいけない』と言う言葉の通り、１人１人が今出来る自分の仕事をしていて決して十分とは言えない器具・器材を工夫して診療ができると言う事を学びとても感動しました。
初参加でいっぱいいっぱいだった私に、毎日診療所に来ては窓から名前を呼んでくれる子供達にいつの間にか笑顔で診療する事ができていました。今回の活動を通して、みんなが同じ気持ち、同じ目標を持って治療にあたる事これ程スムーズに患者さんに喜んでもらえる診療が出来る事も学びました。
海や星がとても綺麗で、子供達のキラキラした瞳、とても豊かな心を持った島民の方々に出会い、人と人とのつ

ながりを自分自身がより一層大切にしたいと思いました。
　最後に、ボランティアに参加させてもらった事を院長やスタッフに感謝し、沢田先生をはじめＪＤＭの方々に優しく指導をして頂いた事、様々な経験をさせて頂いた事に心より感謝致します。
本当に有難うございました。

濱　佐智代(歯科衛生士)

カオハガン感想文

初めて、カオハガン島に行き、初めてボランティアというものに参加させていただきました。
海外も年に一回程度だし、しかもボランティアだし、事前説明会も参加してはいないし、水や電気も不便で、トカゲ、蚊も出るし、聞いたこともない島だったので、不安だらけの出発でした。
　セブ島に着いて、忙しく車に乗り、港について、船に乗り、慌ただしくカオハガン島に着いて、自己紹介、明日からのスケジュール、部屋割りなど説明され、運良く(？)一番良い部屋と言うとこに２泊させていただき、ここが一番良い部屋ならば、正直他の部屋はどんだけの部屋なんだろ？なんて思いました。
　なれない環境で、なかなか眠れず、疲れてるはずなのに、そして明日からの仕事もあるのに…なんて思いながら、やっと就寝できた気がします。
　初日、朝御飯からとても美味しくいいただきました。この島でのご飯は毎回美味しく、ハエが凄いたくさんいるのは気になるんですが、後半気になる事もなくなりました、人間慣れなんですね…
私は、ずっと診療所の方で働かせていただきました。そして右も左も分からぬまま、準備から始まり、教えていただきながらバタバタしながら初日は終えた気がします。その日は、緊張か気温の変化か、少し体調がくずれたりもあり、早目に休ませていただき、夜には少しずつ良くなり、周りの方にも御心配かけてしまい、でも皆さん本当に心配していただき、とても嬉しかったです。
診療の流れもだんだん掴めてきて、先生のアシスト、子供達の充填、スケーリング等やらせていただきました。そして日本とは全く違う治療方針で凄く驚く事ばかりでした、治療はカオハガン流でその患者さん、環境に合ったやり方なんだと話を聞き、カオハガンだけではなく、こういった診療所がない小さい島では、どういった事が重要なのかと考えさせられました。
　参加させていただいた２月は、昼間は全然雨もなく、暑くて、空もきれいで、夜にはたくさんの星が見えて、天気にも恵まれていました。朝方、夜中は大雨な日もありましたが、行動する時間帯は晴れていました。
なので最終日に船に乗り連れて行っていただいたシュノーケリングもとても楽しく、時間があっという間に過ぎてしまい、帰ってきたら子供達の運動会、みんな目がとてもきれいで、凄く楽しそうに笑顔で、良い顔してやっていました、そんな子供達を見ているとこっちまで楽しくなりました。
　そして、そこそこお酒が好きな私は、仕事後に飲めたサンミゲル(だったかな？)ビールとても美味しかったです！技工士さん達のおつまみも頂きながら、そして皆さんとても楽しく、関東人が今回二人しかいなかったんで

すが、関西弁の話をしたりと、プライベートな話まで、歯科の話だけではなく、お酒飲みながら出来たのが楽しかったです。 マンゴーパーティーも忘れません！

でも、一番想い出に残ってるのは、カシオさんちホームステイでした。

また、タイミング合えば参加させていただきたいです。

次回は、もっとお役に立ちたいと思います。

2013 年 2 月に参加できて本当に良かったです、そして皆様ありがとうございました！

近藤　理紗（歯科衛生士）

カオハガン参加感想文

平成２５年２月６日～１１日まで、歯科海外ボランティアのためにフィリピンカオハガン島へ行って 参りました。

私は、以前からフィリピンへの寄付の為に歯ブラシを集めるというボランティアをしていました。いつか、現地へ行って歯科衛生士として、活動に参加してみたいと考えていました。今回、職場のみんなのおかげで実現する事ができました。

期待と不安が入り混じった気持ちで日本を出発し、一日掛かりで現地へ到着しました。現地の皆さんは、暖かく迎えてくださいました。島での食事はとても美味しくて、フィリピン料理が好きになりました。

２日目からは早速活動です。私は、日本から媒体を作ってきていたので、現地の子供達に歯についてのお話とブラッシング指導をしました。英語でブラッシング指導をするのは初めての事だったので、緊張しましたが、学校の先生が、現地の言葉に訳し、子供たちに伝えてくださいました。子供達は、真剣に私達の話を聞き、赤染めした歯を一生懸命磨いていました。子供達がとても可愛くて、私は楽しんで指導することができました。しかし、まだ小学校にも 関わらず口腔内はカリエスだらけだったり、虫歯で抜歯されたと推測できる欠損にはショックを受けました。愛らしい笑顔を見せてくれる子供達、まだまだ歯ブラシの習慣や、口腔内へ対する意識が低いのかなぁ？と思いました。私達が伝えた事を少しでも理解してもらい、口腔内にトラブルを抱える子供達が減少すれば良いと切実に思いました。

昼からは、検診のお手伝いをさせて頂きました。ここでは、ドクターが口腔内をチェックし、衛生士が記入をします。カリエスがある子供達はすぐに治療へ回されます。治療室では、ドクターが充填や抜歯を行い、衛生士がアシストをします。技工士さんが、デンチャーを作製します。治療室は、想像以上に忙しく、慌ただしく作業に取り掛かります。私は、抜歯のアシスタントをさせてもらいましたが、日本では根管治療を行い、保存できるレベルのカリエスでも抜歯。連続で４本抜歯のアシスタントに付いたときは、少し切ない気持ちになってしまいました。しかし、治療を終えた患者さん達は、笑顔で嬉しそうでした。痛みから解放されるからです。

私は現地で病気になってしまい、一日しか活動に参加することが出来なかったのですが、日本がいかに恵まれているかということ、治療を受けられる喜びを実感させられました。日本人は、諸外国に比べると口腔内への関心が低いです。その証拠に成人の八割以上が歯周疾患に罹患しています。歯科衛生士としてもっと歯の大切さを伝えていかなければならないと考えました。フィリピンでは、治療を受けたくても受けられない、痛みに耐えなけ

ればならない、歯がないままの人もたくさんいます。世界にはまだそんな国がたくさんあると思います。先進国である日本では、そんな状況は考えにくいと思います。恵まれた国で歯科に携わるものとして、色々な事を考えさせられました。活動自体は短時間でしたが、素晴らしい経験をさせて頂きました。いつか、また参加したい、そう考えています。
また、今回病気になってしまったことで、活動メンバーの皆さんには、心配や迷惑をかけてしまい、申し訳無い気持ちでいっぱいです。
代表の沢田先生、栗山さんには感謝しきりです。温かいお心遣い、優しさに病気で参っていた気持ちが癒やされました。今回病気になったことで、気付けました。 皆さんのように医療従事者として、まわりへの配慮、気遣いができる人になりたいと。そして人間的にも衛生士としても成長し、またこの活動に参加することが できれば良いなと思います。

中田　有香(歯科医師)

JDM の活動で思ったこと

私に何かできることはないか、と思い JDM の HP に行き着いたのが参加のきっかけです。
３日間を通して、島民の方々の検診・診療に携わらせて頂きました。
微力な力でしたが、少しでも貢献できたものがあれば幸いです。
活動の中で最も印象に残ったのは、歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士の３者によるチームワークの素晴らしさです。
歯科医師の的確で迅速な診療、歯科衛生士のプロフェッショナルな仕事、歯科技工士の巧みな技。
その３者の連携により、限られた時間と診療環境の中で島民の方々に最善の診療を提供されていました。
今回の活動では入れ歯の製作が主に行われ、３日間で多数の入れ歯が製作された事だけでも驚きでしたが、最終日に２時間ほどで入れ歯を製作された過程は、圧巻でした。
これは歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士の３つの完璧なチームワークがなくてはできない事です。
素晴らしいメンバーの連携により、JDM の活動は支えられているのだと実感しました。
最後になりましたが、カオハガン島の海と星の美しさ、食事のおいしさも大変素晴らしいものでした。
JDM の方々、色々とお世話になり本当にありがとうございました。
ボランティアの「かきくけこ」を忘れず、これからも自分にできる事をしていこうと思います。

カオハガンの将来の楽しみ

フィリピン共和国のカオハガン島にエッジ・ナノイという女性がいます。
幼い頃からＪDMの診療活動を目にしていた彼女の夢は自ら歯科医師となって、島の人々に貢献したいと言う想いでした。
小学校から成績優秀な彼女でした。歯科医師になるために、セブの医科大学で学びたいという希望がありました。しかし、カオハガン島で生活している両親の収入では、島を離れて医科大学に通う金銭的余裕など到底ありませんでした。
私達は彼女の想いを実現すべく、澤田歯科内で奨学金の募集を行っています。そして昨年、集まった資金を送金しました。彼女は猛勉強の末、見事にセブ・ドクター大学の歯学部に入学いたしました。
セブでは最高レベルの大学です。

エッジさんは、本年３月に１学年目を終了することができました。彼女の成績は“ＧＯＯＤ”、年内履修８科目の平均成績は、２．２点。これは、日本での１００点満点に換算すると、８３点に値するそうです、この成績はフィリピン在住の日本人の話によると、セブ島最高の医科大学での第一年目としては大変良い成績だということです。

本人は勉強が大好きなようで、これからの勉学に熱意を燃やしている様子です。学期終了後、彼女から私のもとへ手紙が来ました、私達の奨学金に対して、大変感謝をしてくれていました、『将来、歯科医師になってカオハガン島に帰って診療所を開き、カオハガン島民をはじめ、地域の人々の為に貢献して行きたい。』と綴られていました。

彼女の将来が本当に楽しみです。カオハガン島出身者による、カオハガン島のための歯科医療。
私たちJDMの目標である、原住民の自立の第一歩となってくれれば嬉しいことです。
今後も支援を継続して行きたいと考えています。
支援に賛同して頂ける方は、澤田歯科へ奨学金のご協力をお願いします。

国際交流

八尾市立南山本小学校とレナケル小学校との国際交流

すてきな出会いをもとめて・・・

八尾市立南山本小学校　津﨑惠子

今年度も、本校 5 年生が「ヴァヌアツ共和国との文化交流」を基盤とした授業を沢田先生にしていただくこととなりました。子どもたちは初めての取り組みですが 7 年目の私としては、さて、次はどんなものを作って送ろうかな？と長い時間悩みます。簡単でかさばらなくて遊べるもの・・・。そこで今年は・・・。！

ヴァヌアツにブンブンごまを送ろう！！

初めて見るヴァヌアツ共和国の様子に子どもたちは歓声を上げたり驚いたり・・・。ヴァヌアツはどこにあるの？自然は？暮らし方は？どんなものを食べているの？着ているものは？どんな家？トイレはあるの？お風呂は？飲み水は？・・・？？？！事前にパソコンなどで調べていた子どもたちですが、情報はヴァヌアツの観光地が中心で、首都ポートヴィラのリゾートホテルの近辺の映像などが殆どです。私たちが交流するレナケル小学校はタンナ島にあり、電気もガスも水道もない所。小さなスーパーがあるようですが物価がとても高くて日用品でもなかなか買えないのだそうです。

それでも、日本とはもう全く異なる環境で暮らす子どもたちの満面の笑みをみて、「なんでこんなに素敵な笑顔になれるんやろ・・・？」というひとつの疑問も生まれてきました。さて、何でやろな？！と、これから核心に迫っていきます！

ということで、まずレナケル小学校の友だちに、南山小 5 年生手作りのカラフルブンブンごまを送ることになりました。

一人一つ、心をこめて作りましょう！！レナケル小学校へも沢田先生が材料を持って行って下さって現地の子どもたちに作ってもらい、また 5 年生に届けて下さいます！

1 月 30 日の水曜日、総合でお世話になっている沢田先生に授業をしていただきました。1年間にわたるヴァヌアツ共和国との文化交流もあと少しで終わります。本当の幸せとは何なのか？生きるってどういうことなのか？私たち大人にとってもなかなか難しいテーマですが、あえて今の子ども達にじっくり考えさせることが狙いです。今回は、宮崎テレビが沢田先生のボランティアチームと同行し、活動の様子を取材した映像を見せていただきました。現地の自然や生活、文化や学校の子ども達の様子などが紹介され、今までは写真でしか見ていなかった子どもたちには大変興味深い内容でした。歯の診療も抜歯や入れ歯調整など年に一度しかない治療のチャンスに大勢の患者さんが列を作り、スタッフの方たちの活躍ぶりがとてもよくわかりました。また、5 年の子どもたちが一学期に作って送ったぶんぶんごまで現地の子どもたちが珍しそうに楽しそうに遊んでいる映像が映ったときは「うわ～つ！あれ、この前送ったブンブンごまやん！！」「あれ、俺のんちゃうか～？」「ほんまやっ！」などとえらく盛り上がりました。

『幸せってなんだろう・・・？文明文化が幸せにつながっているのではないと思います。人はみんな一人で生きていけません。生きるというのはみんなで助け合うことだと思います。人間の心は気持ちの持ち方次第です。今自分が生かされていることに感謝すること。そして一生懸命生きること。幸せに生かせてもらっているからこそ努力をする。がんばる元気が出るのです。幸せとは自分の心の中にある・・・。私はそう思います。何回も死に目にあっている私は、人のためになることを決意し「生かされし我が人生に感謝」しながら体が動かなくなるまでヴァヌアツやフィリピンへの医療ボランティアを続けたいと思っています。』－沢田先生の言葉より－

自分たちがこの文化交流に関わっているんだと実感することがとても大事だと思っています。

一回きりの派手な取り組みではないですが、子どもたちの柔らかい心を耕し、感謝の気持ちが持てるよう少しずつ続けていきたいと考えています。

寄付活動

ヴァヌアツへの寄付

今年度は多くの皆さんのご協力で、ヴァヌアツ政府が式典などに使用するテントを寄付しました。
その他にも、石鹸、タオル、服、帽子、サッカーボール、鉛筆などを寄付しました。寄付に御協力頂いた皆様に感謝の意を表します。

国内活動

２０１２年６月１３日(水)　八尾市立南山本小学校５年生対象１学期授業
「ヴァヌアツでの歯科医療奉仕活動について」
参加者：沢田・小山・沖・栗山

８月１９日(日)　産経新聞「サンケイ エキスプレス」
相川梨絵のヴァヌアツ通信において
ＪＤＭのヴァヌアツでのボランティア活動紹介

８月　宮崎テレビケーブルＴＶに於いて２回に渡り１５分番組でＪＤＭの活動を放映される。

１１月　７日(水)　生駒ロータリークラブにおいて卓話
「南太平洋における医療奉仕活動と青少年育成について」講師：沢田宗久

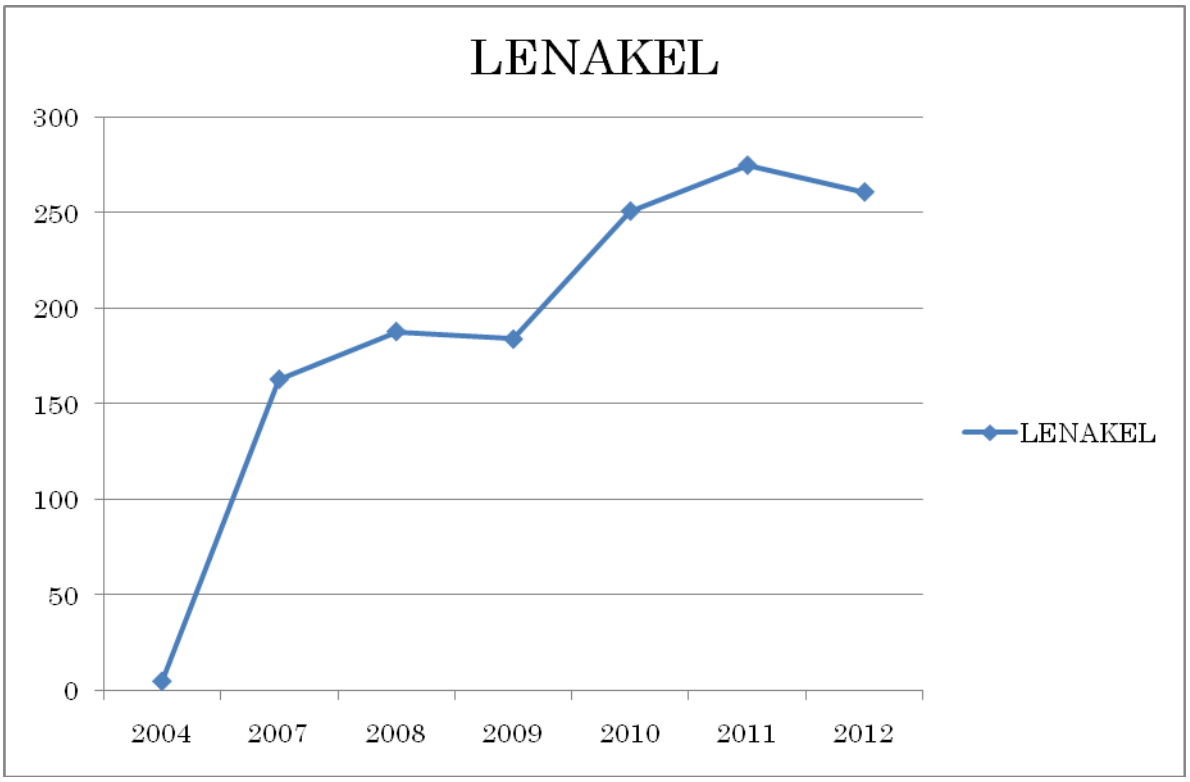
１１月１４日(水)　八尾市立南山本小学校５年生対象２学期授業
ボランティアを通じて道徳の授業を担当
参加者：沢田・中村・栗山

１２月１９日(水)　大阪なにわソロプチミスト依頼により
「南太平洋における医療奉仕活動と青少年育成について」シェラトン都ホテルに於いて講演
講師：沢田宗久

２０１３年 １月３０日(水)　八尾市立南山本小学校５年生対象３学期授業
宮崎ＴＶのビデオを観ながらの授業を担当
５年生による『よさこい踊り』を見学
参加者：沢田・甚田・中村・栗山

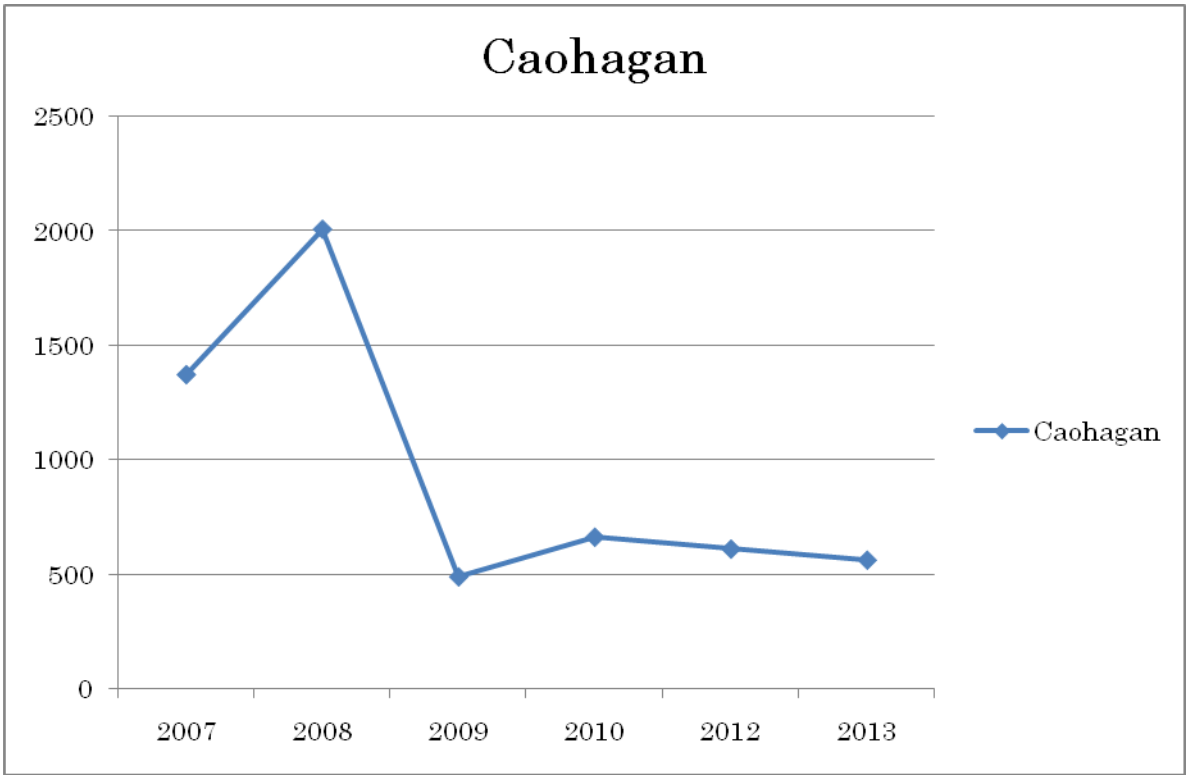
ヴァヌアツ Lenakel 小学校の DMF 指数

School Names	データ	2004	2007	2008	2009	2010	2011	2012
LENAKEL	合計 ／ DMF	5	163	188	184	251	275	261
	合計 ／ D	5	160	181	181	251	269	248
	合計 ／ M	0	3	2	1	0	3	13
	合計 ／ F	0	0	5	2	0	3	0
	検査人数	6	250	278	298	246	298	336
	平均 ：DMFT	0.8	0.7	0.7	0.6	1.0	0.9	0.8
全体の 合計 ／ DMF		5	163	188	184	251	275	261
全体の 合計 ／ D		5	160	181	181	251	269	248
全体の 合計 ／ M		0	3	2	1	0	3	13
全体の 合計 ／ F		0	0	5	2	0	3	0
全体の 検査人数		6	250	278	298	246	298	336
全体の 平均 ：DMFT		0.8	0.7	0.7	0.6	1.0	0.9	0.8



フィリピン　カオハガン島の DMF 指数

School Names	データ	2007	2008	2009	2010	2012	2013
Caohagan	合計 ／ DMF	1,371	2,005	489	662	610	562
	合計 ／ D	876	1,224	415	510	339	429
	合計 ／ M	366	556	18	13	93	22
	合計 ／ F	129	225	56	139	178	111
	検査人数	236	412	134	144	176	130
	平均 ：DMFT	5.8	4.9	3.6	4.6	3.5	4.3
全体の 合計 ／ DMF		1,371	2,005	489	662	610	562
全体の 合計 ／ D		876	1,224	415	510	339	429
全体の 合計 ／ M		366	556	18	13	93	22
全体の 合計 ／ F		129	225	56	139	178	111
全体の 検査人数		236	412	134	144	176	130
全体の 平均 ：DMFT		5.8	4.9	3.6	4.6	3.5	4.3



ジャパン　デンタル　ミッションについて

Year	沿　革
1982	歯科医の沢田が理事を務めていた社団法人南太平洋協会を通じてヴァヌアツ共和国の事を知る
1983	眼科医の岩崎氏と共に“ヴァヌアツに医療を送る会”に歯科医師として沢田が、ヴァヌアツ共和国で活動を開始
・ ・ ・	沢田は、一人で活動を続けていたが、現地の人たちの口腔内の機能回復を目的として歯科技工士に同行してもらう事になり、歯科衛生士や一般のボランティアへと参加者層が広がり参加者が増えてくる事となる。
1995	活動内容の拡大のため「NGO南太平洋に歯科医療を育てる会」を設立
1996	フィリピン共和国カオハガン島のオーナーである崎山克彦氏からの依頼を受け、カオハガン島での歯科医療活動を開始
・ ・	ヴァヌアツ共和国に年2回、フィリピン共和国に年2回の活動を継続している。
2003	組織をNPOとし、名称を「NPO法人ジャパン　デンタル　ミッション」に変更
2004	ヴァヌアツ共和国保健省とJDMの現地における歯科医療サービスについて合意、調印を結ぶ。
現在に至る	

ジャパン　デンタル　ミッション活動方針

1.　歯科医療活動

・ヴァヌアツ共和国における歯科医療活動

マレクラ島、タンナ島において、中心となる病院を拠点として診療活動を行っています。また、病院の周辺の小・中学校に行き歯科検診及びブラッシング指導を行っています。

・フィリピン共和国における歯科医療活動

カオハガン島において、簡易診療所を中心に診療活動を行っています。島内にあるカオハガン幼稚園・小学校に歯科医師・歯科衛生士・ボランティアのチームで歯科検診並びにブラッシング指導や染め出しを行い歯の磨き方を指導しています。

2.　文化交流活動

・絵画交換

ヴァヌアツ共和国、フィリピン共和国の両国に日本から画用紙や絵の具、クレパスを寄贈し、子供たちに絵を描いてもらいます。その絵を、日本に持ち帰り絵画展を様々な所で行い、文化の交流を図っています。

また、白地の鯉のぼり、凧、羽子板などに日本とヴァヌアツの子供たちが絵を描き、交換しました。

3.　生活向上活動（派遣国の生活のQOLがより向上するための活動）

・文房具、スポーツ用品の寄贈

歯ブラシ、文房具、スポーツ用品などの寄贈も行い、現地の子供たちの識字率の向上、学業支援や健康促進を考えております。

・運動会の開催

フィリピン共和国カオハガン島において、島民たちとのふれあいの意味も込めてJDMスタッフと一緒に運動会を行っています。

4.　青少年育成

精神的に問題を抱えた人達に海外活動に参加してもらい、生きることへの活力を養うためのキッカケ作りをするお手伝いをしています。

協力者名簿

- (株)アド・ダイセン
- アベ・ラベリング(株)
- オーエム歯材(株)
- 大阪歯科大学　口腔衛生科
- 大阪市立開平小学校
- 大阪市立昭和中学校
- 大阪市立高津小学校
- 大阪市立玉造小学校
- 大阪市立中央小学校
- 大阪市立中大江小学校
- 大阪市立南大江小学校
- 大阪市立南小学校
- 大阪船場ロータリークラブ
- 大阪南太平洋協会
- 大阪府歯科医師会
- 尾崎歯材(株)
- 川西市歯科医師会
- 関西国際交流団体
- 関西学院中学部
- 清原(株)
- 共栄社化学(株)
- クリエイト(株)
- グラクソ・スミスクライン(株)
- 国際ソロプチミスト大阪-梅田
- コクヨ S&T(株)
- サクラクレパス(株)
- 沢井製薬(株)
- 笹野電線(株)
- 澤田歯科
- サンスター(株)
- (株)システムつう
- (株)ジャックス
- シンク(株)
- 甚田会計事務所
- ｽﾎﾟｰﾂﾈｯﾄﾜｰｸｼﾞｬﾊﾟﾝ
- 住之江歯科医師会
- スモカ歯磨(株)
- セイコーエプソン(株)労働組合
- セキセイ(株)
- 全日本ブラシ工業協同組合
- 大日本除虫菊(株)
- 大平工業(株)
- 太洋旅行(株)
- 嶽北歯科
- タナベスポーツ(株)
- 株式会社ツサカ
- つるや(株)
- トキワ(株)
- 有限会社トリビ
- ナカガワ(株)
- 南総工業(株)
- 西澤歯科医院
- ニッタハウス(株)
- 日本歯科医師会生涯研究課
- 根来(株)
- 白水貿易(株)
- ハグルマ封筒(株)
- (有)ハマダデンタルサプライ
- (株)林
- 樋口歯科医院
- 平田歯科医院
- 不二印刷(株)
- ﾍﾞﾘﾃｯｸ・ｱｲｺﾆｯｸｽ・ﾍﾞﾝﾁｬｰｽﾞ(株)
- 蛍印刷(株)
- モリタ(株)
- 八尾市立西山本小学校
- 八尾ロータリークラブ
- 八千代オート(株)
- 山貴産業(株)
- ユー・エフ・オー(株)
- 陽春園(株)
- 吉竹歯科医院
- DENTRADE
- Greenpath Corporation
- JICAヴァヌアツ支所
- NPOセンター
- TKX(株)
- UHA味覚糖(株)

本年度寄付を頂いた皆様　　**敬称略**

- 赤木　宗成
- 青木　トシエ
- 伊豆　周久
- 大阪船場ﾛｰﾀﾘｰｸﾗﾌﾞ
- 沖　真一郎
- 斧原　周子
- 片岡　清夫
- 金本　裕光
- (株)アド・ダイセン
- 尾崎歯材(株)
- 木村　和人
- 共栄社化学(株)
- (株)共和コーポレーション
- (株)栗原
- (株)サクラクレパス
- 金沢　啓文
- 川田　昌美
- 儀三武　壽美子
- 合田　節子
- 佐々木　孝子
- 笹野　順一
- 佐藤　道子
- 澤田歯科
- (株)昭和
- シンコーラミ工業(株)
- セイコーエプソン(株)労働組合
- 大日本除蟲菊(株)
- 辻本　供代
- (株)トキワ
- (株)ナカガワ
- 関根　淳
- 滝　晴子
- 田口　方子
- 竹内　智子
- 武安　俊子
- 中野　栄津子
- 西　京子
- 西村　知子
- 白水貿易(株)
- モリタ(株)
- 山貴産業(株)
- UHA味覚糖(株)
- 根来(株)
- 日織商工(株)
- 西本　康子
- 樋口　淳一
- 平田歯科
- 藤本　茂子
- 森本　ふみ子
- 矢野　恭子
- 山村　瑛子

2013年度海外活動予定

参加のジャンルは、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、一般ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱとなっておりますが、どなたでも参加できます！現地での仕事はたくさんあります！皆様のご参加をお待ちしております。詳しくは、ホームページ http://www.japandentalmission.org をご覧下さい。

日　程

ヴァヌアツ共和国		
チーム名	日　程	締切日
7月チーム	2013年　7月　13日～　7月21日	2013年　6月13日

フィリピン共和国		
チーム名	日　程	締切日
11月チーム	2013年11月20日～11月24日	2013年10月20日
2月チーム	2014年　2月　7日～　2月11日	2014年12月28日

募集人員

歯科医師	約3名前後
歯科技工士	約3名前後
歯科衛生士	約3名前後
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ	約3名前後

参加費用

	ヴァヌアツ共和国	フィリピン共和国
科　目	金　額	金　額
航空運賃　＊1	約25万円前後	約7万円前後
滞在費	なし	なし
海外傷害旅行保険代	約1万円	約5千円
Tシャツ代　＊2	3千円	3千円
合計	約26万円前後	約8万円前後

＊1:航空運賃は時期により変動します

＊2:持ってない方のみ

理事紹介

代表理事　沢田　宗久

沢田歯科

院長　歯科医師

副代表理事　栗山　雅行

ベリテック・アイコニックス・ベンチャーズ（株）

代表取締役

理　事　吉竹　弘行

吉竹歯科

院長　歯科医師

理　事　河内　光明

沢田歯科

歯科技工士

理　事　田中　良明

上がり口歯科医院

歯科技工士

理　事　小西　あゆみ

大谷歯科

歯科衛生士

理　事　森田　朋美

歯科衛生士

理　事　上崎　秀美

上崎歯科

院長　歯科医師

理　事　吉井　照子

日本放送協会

大阪放送局

理　事　富田　真仁

富田まひと歯科

院長　歯科医師

理　事　島　猛

上がり口歯科医院

歯科技工士

ヴァヌアツ　タンナ島

フィリピン共和国　カオハガン島

2013年　6月15日　発行
発行者　NPO法人ジャパン　デンタル　ミッション
〒542－0085
大阪市中央区心斎橋筋 1-5-28　心斎橋コアビル　沢田歯科内
TEL：06－6252－0118　FAX：06－6641-5572
URL：http://www.japandentalmission.org
E-mail：info@japandentalmission.org
＊本書の一部または全部を無断で複製、転載引用することを堅く禁じます。